内水試　かわら版　No.114　茨内水試図　1993.6.29

ヨシ原の復元を考えよう

霞ケ浦北浦では湖岸のヨシ原の減少が著しく、かつてのようなヨシやガマの繁茂している湖岸は、どこにも見当たらなくなってしまいました。白いコンクリートの護岸が、延々と続いているのが現在の湖岸の状況です。

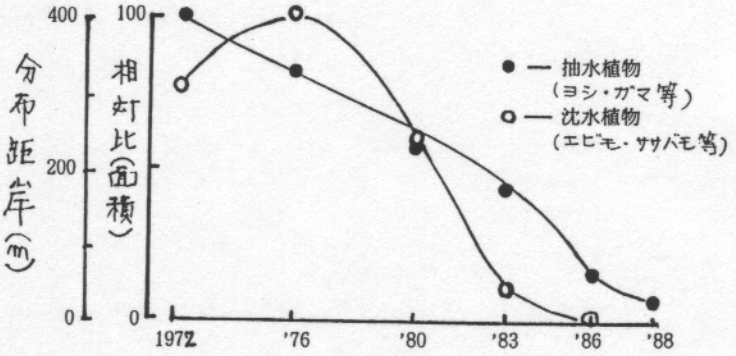
ヨシ原の水質浄化効果については一般に広く知られており、各地でヨシ原の保護が叫ばれ、琵琶湖では「ヨシ条例」を作って、ヨシ原の保護に努めていることはご承知のことと思います。

しかし、霞ケ浦北浦ではどうでしょうか、ヨシ原の減少について何ら有効な手を打つ事なく、今日まで来てしまいました。

私たちはこの大きな自然破壊に対して、謙虚に反省すると同時に、消えたヨシ原の復元に努力すべきだと考えています。

ところで、霞ケ浦北浦の水質浄化を考える場合、湖内への汚濁負荷量の削減は、勿論基本ではありますが、負荷量の規制がある程度進んだ現在、流入負荷量にばかり注意を向けるのではなく、こうした自然の浄化機能を積極的に取り込んで浄化を進めるという考え方が、今、必要なのではないでしょうか。

ヨシ原の浄化といえば、ヨシの生長に伴う摂取量だけを考えがちですが、ヨシ原の湖内水質におよぼす影響は、ただ単にそれだけではないことが、内水試の調査で明らかになってきています。



玉造町高須地先の水生植物帯の変遷
(抽水植物については1972年の面積を100とした相対値，沈水植物は分布距岸)

人間の手を加える前、湖岸にヨシ原が繁茂していたのは、霞ケ浦北浦にとって、ヨシ原が存在する理由があったからだと考えるべきでしょう。

霞ケ浦北浦はいまや、ヨシ原の無い日本最大の湖になってしまいました。

内水試でも現在、ヨシ原造成のための調査研究を進めておりますが、北浦村漁協（方波見　和夫組合長）では組合独自の考えに基づき、北浦の山田地先の湖岸沿い約200 mに渡って、ヨシ原の造成を試みています。

このような自然のヨシ原に近い、大規模な造成についての試みは、霞ケ浦北浦ではこれまで全く例がなく、非常に注目すべきものといえます。

漁協自身の手で、このようなヨシ原造成についての努力が始められたという意義は、きわめて大きなものがあると思います。

ぜひ一度、現地を見られることを強くお勧めします。

茨城県内水面水産試験場　（☎ 0299-55-0324 ）